

小山町の谷津田に通い始めて

金井 亜由美（千葉市緑区在住）

私が小山町の谷津田に通い始めて、一年です。せっかくあすみが丘に住んでいるのだから、地元で、子供たちに自然体験をさせたいなあと思っていたところ、「谷津田で採れた新米を炊いて、豚汁を食べよう！」という企画に誘っていただきました。おいしいご飯をご馳走になり、日が暮れるまで、子供たちは走り回って遊びました。「また、遊びに行きたい！」と、子供たちは大満足の日でした。が、私はその後、ひどい筋肉痛になってしまいました。日頃よく歩いているつもりでしたが、整備されつくしていない自然は、体にこたえました。なんだかぬかるんでいる細い道、道があるのかないのかわからないような斜面も登っていきます。「年長さんの息子には、とてもそんな斜面は登れない」と私はしり込みしようと思っておりましたが、みんながどうにか手を貸して、登らせてしまいました。一日子供に付き合っ、なんだかとっても疲れてしまいました。

「今度はもちつきするよ！」という言葉につられて、翌月も谷津田を訪れました。何十という家族連れで、小さな広場は人だかりになっていました。「もちつきって言葉に日本人は弱いなあ・・・」と思うと同時に、たくさんの方が、谷津田の活動に注目しているのだなあと思知らされました。

私は小山町がどこにあるのかも、以前は知りませんでした。産廃処分場ができるということを心配に思っておりましたが、それは空気が悪くなるかもしれない、ダンプカーが町の中を走って危ないという気持ちの方が強かったのです。しかし、谷津田に通っているうちに、そこに住む小さい先住民(?)に会う機会も増えました。カエルやトンボやクモ、カニ、いろんな虫もきれいな水辺で暮らしていました。後に知ったことですが、絶滅が危惧されている生き物も、あすみが丘に程近いこの谷津田で、生まれ育っているのです。子供たちはいつの間にか、カエルや、オニヤンマの大きなヤゴも触れるようになっていました。

周囲には田んぼが広がって、裏手の山には木々が生い茂っています。処分場の予定地になっていた場所だけは、広い平地になっています。今ではその平地も植物のつるが、むき出しの地面を覆い隠そうとしています。ここに、谷津田が残されて本当によかったと思いました。

春の田植え、秋の稲刈りにも参加しました。泥は深く、長靴が埋まってしまい、抜けなくなります。子供は泥だらけ・・・。「転ばないで、転ばないで」と祈ってはみるのですが、息子は、稲刈りでは見事な転びっぷりを披露してくれました。着替えを取りに戻ったり、汚れた服を水路で洗ったりにおわれる私を尻目に、娘だけが稲刈りに取り組みました。「こういうときは着替えは持ってこないよ」、「靴下は古いのをとっておいて、こういう日にはかせる、そして、捨てる」という指導?も受けましたが、どろどろの後始末にはまだまだ慣れません。

寒い冬になります。いつもじめじめした谷津田の冬はとっても寒そう。子供たちのためと思って通い始めた谷津田でしたが、一緒に経験しないと決してわからなかった、豊かで、そして手ごわい自然を私も味わわせていただいています。また、遊びに行きます。どうぞよろしくをお願いします。





里山たんけんレポート

第 94 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007 年 11 月 4 日(日) 晴れ

谷津田はすっかり黄褐色に彩られ、木の実も色づき、秋の風情になりました。晴れてチョウやトンボも元気に舞っていました。盛りは過ぎましたがセイタカアワダチソウの花にはキタテハ、ヒメアカタテハ、などのチョウ、セイヨウミツバチ、ハナアブの仲間などたくさんの虫が訪れていました。バッタの仲間もまだまだ元気、コバネイナゴは畦からパタパタ音を立てて飛び出し、ツチイナゴ、クビキリギス、セスジツユムシなどが出てきました。赤とんぼはたくさんいましたが、観察会終了後捕虫網で採って確認したところノシメトンボ、アキアカネ、マユタテアカネの 3 種が網に入りました。谷津にはいつものとおり、モズの声が響き、ヒヨドリが鳴き騒いでいました。スタート時にはハシボソガラスがタカ(種不詳)にモビングする姿も見られました。アオサギが舞い、アオジやジョウビタキの声もしていました。いよいよ冬鳥が来る季節になりました。秋晴れの中、秋の色合いに染まりながら散策しました。

(参加者 大人 5 名; 報告: 網代春男)

第 78 回 下大和田 YPP 「収穫祭」

2007 年 11 月 23 日(金・祝) 晴れ

穏やかな小春日和に恵まれて田んぼ脇の広場で収穫祭が行われました。みんなで作った新米のコシヒカリは羽釜を使ってかまどで炊きました。大きな木のふたがコトコト音を立てて動き出し、少しふきこぼれるようになるとよい香りが漂ってきます。じっくり蒸らしてふたを開けると湯気の下にふっくら炊きあがったご飯が現れました。おいしいご飯に舌鼓、お焦げまでおいしくいただきました。いつものようにおかずメニューは豊富で、イカにカマス、アジの焼き物、いろいろな焼き鳥、豚汁と谷津はおいしい香りいっぱいになりました。持ち寄りで様々な手作りのおかずが食べられるのも YPP の収穫祭ならではです。たき火でじっくり焼いたサツマイモやジャガイモを食べるともうお腹一杯。

恒例の谷津田ウルトラクイズでは「北はどっち?」、「谷津田の標高は?」と、ふだんちょっと気にしていなかった問題に頭を悩ませ、勝ち残った方にはコシヒカリの玄米がプレゼントされました。今年の新米づくりのこと、田んぼの生きものことから、日常の様々な話題まで和気あいあいのおしゃべりを楽しみながら晩秋の一日を過ごしました。

(参加者 大人 27 名、小学生 6 名、幼児 5 名; 報告: 高山邦明)

下大和田「古代米の脱穀」

2007 年 11 月 18 日(日) 晴れ

今年最後の田んぼでの作業になる古代米の脱穀をしました。コシヒカリの時は脱穀機のトラブルで大変だったのですが、今回はきれいに掃除をして臨んだので大丈夫!と思ったのですが、いきなりベルトのトラブル!古くて伸びてしまったベルトがすべてしまい動力を伝えられません。アイデアを絞り出してあの手この手で悪戦苦闘の末、2 時間ほどで何とか動くようになってほっと安心。それでもまた止まってしまうのでは?と不安を抱えながらの作業でしたが心地よいエンジン音で動いてくれて無事全部の古代米を脱穀することができました。今年は機械のメンテナンスの重要性を痛いほど感じました。これを肝に銘じて来年はうまく作業できると思います。オダも片付けてガランとした田んぼで立っているかかしたちがちょっと寂しげに見えました。

(報告: 高山邦明)

第 27 回 小山町 YPP「古代米の稲刈りと自然観察」

2007 年 11 月 3 日(土) くもり

6 月 17 日にたくさん子どもたちが植えてくれた古代米を刈りました。早く実った黒米は先に刈ったので残りは緑米と赤米。少人数だったのですが今日子どもたちが活躍してくれてあっという間に刈り終わりました。小さな田んぼなので下大和田に比べると稲をかけたオダも短いのですが、2 年めの今年も田んぼとして維持してたくさんの命を育むことができ満足です。元気いっぱい子どもたちと一緒に谷津を散策したら鈴なりのアケビを見つけました。一箇所数十個の大豊作です。甘い自然の恵みをたっぷり味わってから、最後はたき火から取り出した焼いももいただいて満足感いっぱいの稲刈りでした。



(参加者 大人 11 名、子ども 5 名; 報告: 高山邦明)

谷津田いきもの図鑑 No.12

「ノスリ」

カラスより大型で全長 50 - 60 cm、翼を広げると 120 - 140 cm のずんぐりとしたタカです。脇と翼角に暗褐色の斑が目立ち、尾が丸みを帯びているのが特徴です。ユーラシア大陸に広く分布し、小笠原(オガサワラノスリ)や北大東島(ダイトウノスリ)などの島にも分布し、北海道から九州の山地で繁殖します。1 - 3 卵を産卵しますが、3 羽の雛が孵った巣では、孵化がずれるため、餌不足になると弱った一番小さな雛が兄弟によって食べられるという観察記録があります。肉食のため生き残りの厳しさは、われわれの想像を超えた世界であり、それを乗り越えたものだけが生き抜いているのです。

下大和田ではより北の地域から渡ってきたものが、越冬していると考えられます。冬の餌は主にネズミ、モグラ、小鳥類で、渡ってきたばかりの秋にはカマキリなどの昆虫も食べています。ノスリは越冬期には、単独の採食なわばりを持つことが知られており、南スウェーデンでの調査によると、刈り取られて間もない牧草地が主に利用され、なわばりの広さは 1 km² 以下であるという報告があります。



同じタカのサシバの渡りは有名ですが、ノスリも渡りをします。その実態はあまりよくわかっていませんが、徳島県などでは秋に約 1300 羽、春に約 1500 羽が渡っているのが記録されています。また、サシバの渡りで有名な愛知県伊良湖岬では、約 10 年前よりノスリの渡りが序々に増えだしています。ノスリの渡りのルートが変わったのか、ノスリが増えだしているのかはまだわかっておりません。

オオタカやサシバと並んで生態系のトップに位置するノスリがいるということは、豊かな自然が下大和田や小山町にはまだ残っていることをはっきりと証明してくれています。(越川重治、写真提供:田中正彦)

訂正

本年の谷津田だより 10 月号、11 月号に誤りがありました。おわびして下記のとおり訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。なお、修正版はちば・谷津田フォーラムホームページからダウンロードできます。

- ・11 月号の生きもの図鑑「成虫で越冬するチョウ」の 3 段落目(ヒメアカタテハの写真の左側)で、「この夏型と秋型では色彩、形などがキタテハで蛹と幼虫は顕著に異なる」は、「この夏型と秋型では色彩、形などがキタテハでは顕著に異なる」になります。
- ・10 月号の小山町季節のたよりで、9 月 17 日の「ヤマジノギクが開花」は、「ヤマホトトギスが開花」の誤りです。

谷津田・季節のたより

下大和田

- 11 月 3 日 アシ原のあちこちからアオジやカシラダカの鳴き声が聞こえてくる。ジョウビタキのさえずりも、モズがウグイスの鳴きまねをしていた(高山)。
- 11 月 18 日 田んぼにマユタテアカネ、ナツアカネ、アキアカネが舞う。林縁ではオオアイトンボの姿(高山)。

小山町

- 11 月 3 日 リンドウが咲き始める。アケビが豊作。田んぼでアキアカネが産卵(高山)。
- 11 月 17 日 早朝薄っすらと霜が降りる。ツグミの鳴き声が聞こえた(高山)。



稲刈りが終わった田んぼで産卵するアキアカネ(高山邦明)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも)： ちば環境情報センター (TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/)

ご注意： ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第28回 小山町 YPP「自然観察会」

冬の谷津は大陸から渡ってきた鳥たちでにぎわっています。暖かかったのでまだ秋の名残りの生きものたちにも出会えることでしょう。

日時： 2007年12月9日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場

持ち物： 長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費： 100円(資料代など)



第79回 下大和田 YPP「古代米もちつき」

第80回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

恒例の年忘れ古代米もちつきです。谷津田を背景にペタン、ペタン元気よくもちつきをして今年をしめくりましょう。そして新年最初のイベントもお楽しみのだんご焼きです。火を囲んでこま回し、けん玉、お手玉など昔あそびをしてわいわいにぎやかに冬の一日を過ごしましょう。定例自然観察会と一緒に開催となりますので最初に谷津の散策も楽しめますよ！

日時： 古代米もちつき 2007年12月22日(土) 10:00~14:00

どんど焼き 2008年1月6日(日) 10:00~14:00

*いずれも小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。

また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合： 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物： 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物、汁物を入れるお椀、敷物など。

参加費： もちつきは大人500円(食材費を含む特別料金となります)、子ども300円、

どんど焼きは全員300円

主催： ちば環境情報センター 共催： ちば・谷津田フォーラム

第96回 下大和田1月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥もやってきました。鳥を観察して散策します。昨年は強風が吹き荒れ観察会の時にはわずかの鳥しか姿を見せませんでした。ウソやベニマシコもこの谷津でひと時を過ごしました。どんな鳥に出会えるでしょう。今回の観察会はYPPのだんご焼きと一緒に開催します。

日時： 2008年1月6日(日) 10:00~14:00 *小雨決行

場所： 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合： 中野操車場向かいラーメンショップ脇に10:00(同上)

持ち物： 筆記用具、弁当、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費： 300円(資料代など)

主催： ちば・谷津田フォーラム 共催： ちば環境情報センター

編集後記 下大和田も小山も今年の田んぼの作業が終わりました。下大和田の米作りはこれで7回目を終えたこととなります。今年も多くの方が田んぼを訪れ、またたくさんの生きものを育てることができました。小山はまだ2年めですが、アシ原が田んぼに復活し様々な生きものたちが定着してくれました。1年間、ご協力いただいた皆さん、本当に有難うございました。来年も引き続きYPPの活動のサポートをよろしくをお願いします。(高山邦明)